

# 資料館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡 / 湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館報



谷口館長の説明を聞く参加者

## 湯之奥金山（中山金山）遺跡現地見学会開催

7月26日、国指定史跡である湯之奥金山（中山金山）遺跡現地見学会が開催されました。

昨年に続き2回目の開催となった今回は、町内外から25人が参加し、オリエンテーション、資料館観覧の後、現地を目指しました。

毛無山登山道入口から約2時間歩き現地に到着。谷口館長や石部典生山梨県文化財保護指導委員の

説明を受け、テラス跡、坑道、大名屋敷跡、女郎屋敷跡などを見て回りましたが、坑道の中を見学したことは、特に参加者の関心を引いたようです。

途中、通り雨に見舞われましたが、「とにかく疲れた」「大変だった」という声とともに、「すばらしいものを見せていただきました」「いい体験をしました」という声が多く、有意義な一日でした。

# これからの博物館

甲斐黄金村・湯之奥金山資料館 館長 谷口 一夫

湯之奥金山資料館は、昨年4月24日に開館して以来、本年8月16日に有料入館者3万人を記録しました。これは下部町民の約5倍の方々が1年4箇月あまりで来館されたこととなります。

当資料館は、「資料館だより」第4号で紹介しましたが、博物館法に基づく「公立博物館」として登録され、社会教育法に基づいた教育の場として、また、学術及び文化の発展に寄与できる館としての位置付けの上にあります。

既に周知のとおり、湯之奥／中山金山遺跡は、平成元年から3箇年にわたり総合学術調査が行われ、その成果は中山金山遺跡が国の史跡に指定されたことでも意義あるものでしたが、同時にその学術調査に基づく展示施設である湯之奥金山資料館は、「国レベル」でみても重要な施設であり、遺跡、資料館ともに下部町民が誇れる財産であると思います。

いま文部省では、2002年度からの完全学校週五日制に備えて、週末の受け皿づくりのために博物館や美術館などを楽しいものにしようという方向にありますが、ここには、単に一方から情報を来館者に流すだけでなく、相互に情報のキャッチボールができる工夫や、実物にさわったり、体験したり、遊べたりする「ハンズオン」という活動が検討されています。

実は湯之奥金山資料館では、文部省が考えているこのような方向を先取りしています。さらに、それ以上にすばらしいことは、日本で最初に山から金の採掘を行った金山遺跡が、そのまま中山や内山等々、下部町の数箇所に現存していることです。遺跡は、「歴史の現場」ですし、「歴史事実」そのものですから、これは実に貴重なことと言えます。いつでもその「歴史の現場」に立てる魅力があります。館主催の遺跡見学会へは、小学生から80歳以上のお年寄りの方々を含め大勢参加しますが、遺跡の現場に立つといろいろな想いを巡らすようです。

遺跡現地までは急峻な道のりのため、誰もが簡単

に足を踏み入れる訳にはいきません。そのため、資料館で十分に理解していただけるように、金山に至る坂道を復元したり、映像シアターであるべき湯之奥／中山金山の姿を、大型スクリーンで歴史的な背景や流れを立体的に紹介したり、金山に生きた当時の先端技術者「金山衆」の生き様を、ジオラマ展示で再現したり、展示室では、中山金山の発掘資料を軸に中世戦国時代から江戸末までの金山資料を展示し、棟札、陶磁器類、生活用具などから金山衆の信仰や生活の豊かさの一端を垣間見ることができます。

最後にはパンニング皿を使っての砂金採り体験は、本物の金が採れますので、思わず熱中してしまいます。



館内展示の一部

さて、山梨県では、現在県立総合博物館（仮称）建設に向かって基本構想の検討を鋭意進めています。

私も委員の一人として、次のハブ博物館構想を提言してきています。例えば、金山遺跡をその中へ取り入れる場合、国史跡の遺跡をもつ湯之奥金山資料館を超えることはできません。富士信仰と富士山の歴史は富士吉田市歴史民俗博物館にはかきません。

古代甲斐国の国づくりは、曾根丘陵一体の古墳を抱えた山梨県立考古博物館にはかきません。大自然に触れるには南アルプスなどの現場にはかきま

せん。ですから、これらの一部を写真やジオラマで取り入れても、その真の姿、歴史的背景は恐らく単調で興味をひくところに至らないでしょう。山梨の自然（土地）で生きた人々の暮らしぶりも、農業、産業などもその現場にはかなわないはずです。そこで、「県立総合博物館」は、ハブ中核館として、山梨県下の多くの歴史情報を「映像化」し、シアターを充実させる。来館者にはシアターで情報を得た後に、その歴史的視点に立って、テーマごとにシャトルバスで現地へ赴き、臨場感あふれる歴史、あるいは自然の現場にふれていただくことが大切だと思います。

こうしたハブ博物館（県立総合博物館）が実現したなら、県下各地域とも密接な関係ができ、地域の歴史の再発見とともに農業や産業の活性化にも直結できるでしょう。さらに、各市町村でも目玉になる

施設、これには既存施設もありますが、それらの充実やまた新たな歴史的拠点、これはまったくの私見ですが、例えば、白根、韮崎、竜王、八田など広域的な「治水博物館」というような施設なども受け皿として可能性があります。

このような大きな流れ、展開のなかに今後湯之奥金山資料館はどうあるべきか。これも魅力ある資料館を維持するためには、常に新しい発想や教育施設としての内容の積み上げが大事です。

また、館が標榜する全国の金山研究の拠点であり続けるなら、中山、内山、茅小屋各金山の継続的な調査も必要でしょう。

なお、今年も12月から月1回「全国著名金山遺跡の調査現場から」（仮称）と題し、各地の研究者による「公開講座」を計画しています。

## 平成9年度入館者は22,301人

湯之奥金山資料館の平成9年度中の有料入館者数は、22,301人でした。

全入館者のうち小学生以下が7.9%、中学生が1.8%、大人が90.3%という内訳でした。

資料館は、平成9年3月末に完成し、4月上旬の町民への無料開放の後、同月21日に竣工式を挙行、同月24日に一般公開を開始し、以後年度間開館日数

288日を要して達成したものです。

この間、北海道から沖縄県まで、文字どおり全国各地から、幅広い年齢層のお客様をお迎えしました。

なお、このほか無料入館者は、町民無料開放、行政視察、旅行会社の下見など3,588人を数えています。

月別入館者数は次表のとおりです。

年月	開館日数 (日)	区分	有料入館者(人)				無料入館者 (人)	年月	開館日数 (日)	区分	有料入館者(人)				無料入館者 (人)
			観覧券	体験券	共通券	合計					観覧券	体験券	共通券	合計	
9. 4	6	大人	797	36	263	1,096	2,199	9. 11	26	大人	1,086	106	518	1,710	72
		中学生	7	3	12	22				中学生	1	2	4	7	
		小学生	10	41	60	111				小学生	7	21	45	73	
		小計	814	80	335	1,229				小計	1,094	129	567	1,790	
5	28	大人	2,050	143	842	3,035	211	12	23	大人	562	23	181	766	52
		中学生	26	22	39	87				中学生	1	2	0	3	
		小学生	64	98	154	316				小学生	9	11	4	24	
		小計	2,140	263	1,035	3,438				小計	572	36	185	793	
6	25	大人	1,339	100	589	2,028	275	10. 1	24	大人	668	64	237	969	12
		中学生	5	1	4	10				中学生	6	5	5	16	
		小学生	26	23	38	87				小学生	17	15	20	52	
		小計	1,370	124	631	2,125				小計	691	84	262	1,037	
7	26	大人	731	101	560	1,392	116	2	23	大人	734	64	323	1,121	75
		中学生	1	4	6	11				中学生	1	3	2	6	
		小学生	8	25	50	83				小学生	22	11	4	37	
		小計	740	130	616	1,486				小計	757	78	329	1,164	
8	28	大人	1,874	409	994	3,277	72	3	27	大人	744	107	337	1,188	51
		中学生	37	54	89	180				中学生	3	13	23	39	
		小学生	90	268	295	653				小学生	16	37	70	123	
		小計	2,001	731	1,378	4,110				小計	763	157	430	1,350	
9	26	大人	1,099	228	540	1,867	209	合計	288	大人	12,841	1,531	5,769	20,141	3,588
		中学生	4	1	9	14				中学生	95	111	197	403	
		小学生	24	37	72	133				小学生	308	613	836	1,757	
		小計	1,127	266	621	2,014				小計	13,244	2,255	6,802	22,301	
10	26	大人	1,157	150	385	1,692	244								
		中学生	3	1	4	8									
		小学生	15	26	24	65									
		小計	1,175	177	413	1,765									

## 学芸員実習を終えて

当館は、平成10年3月31日付けで博物館として登録公示されましたが、博物館活動の一つとして学芸員資格習得を希望する学芸員実習生第1号を受け入れました。

受け入れにあたっては、県立考古博物館、春日居町郷土館、帝京大学山梨文化財研究所、中富町現代工芸美術館、きもの資料館等の協力をいただきました。

実習生は赤池さおりさん（町内根子出身・昭和音楽大学4年生）で、考古資料の整理や復元、特別展

企画、館運営体験など9日間にわたり実習しました。

レポートには、貴重な体験をしたこと、博物館運営には沢山の人の努力が結集されていること、博物館に理解を示していない人が意外に多いことなどが記されていましたが、生涯学習に対するニーズの多様化により学芸員の仕事量も増加し、また、より専門的知識を求める傾向にあることから、学芸員の任務がますます重要性を帯び、やりがいのあるものと結んでありました。

## 有料入館者3万人目は大木さん（静岡県）

8月16日、お盆の帰省客でにぎわうなか、有料入館者3万人目を迎えました。

この入館3万人目に当たったお客様は、静岡県沼津市江浦にお住まいの主婦大木友代さんでした。

大木さんは町内常葉の御出身で、盆のため実家に里帰りされ、御主人とお兄さんの3人で入館され、この偶然を手にし、たいへん驚かれた様子でした。

大木さんには谷口館長から花束、金箔記念証、オリジナルテレカなどが手渡されました。

「町出身者として資料館はどうしても見ておきたかった施設です。自分が記念入館者になるとは思っていませんでした。古里の思い出がまた増えまし

た。ますます古里が忘れられなくなりました。資料館の発展を祈ります。」と喜んでくださいました。



## 資料館友の会 会員募集

「資料館をとおして学習する会」……それが金山資料館友の会です。

共に学び、自らの教養を高めるとともに、利用者の立場から資料館の活動に協力していただきます。新たに会を組織することとしました。

多数の御入会をお待ちしています。

### 入会されますと

- ・ 金山資料館常設展示・企画展示を無料で観覧できます。
- ・ 友の会主催行事に参加できます。
- ・ 資料館だより及び各種情報や行事案内が送付されます。
- ・ 資料館刊行物が1割引きで購入できます。

### 年会費

- |          |        |        |
|----------|--------|--------|
| ・ 個人会員   | 大人・大学生 | 1,000円 |
|          | 高校生    | 500円   |
|          | 小・中学生  | 300円   |
| ・ 家族会員   |        | 2,000円 |
| ・ 特別賛助会員 |        | 5,000円 |

### 入会方法

資料館窓口でお申し込みになるか、郵便局で所定の郵便振替用紙にてお申し込みください。

郵便振替用紙は資料館まで御請求ください。

入会申込書及び会費が資料館に到着した時点で会員登録いたします。

入会手続きが終了しますと会員証を発行します。

詳細は、金山資料館までお問合せください。

## 誌上博物館 — シリーズ その5 — 甲斐の金山

甲斐の国を本国とした武田氏は、信玄とその子勝頼の時代に支配領域を最も拡大し、それは信濃、駿河、上野、遠江、三河、美濃、飛騨、越中にまたがっていました。

それらの地には、武田氏との関わりを伝える金山が今でも数多く存在しています。

それは、領国経済を支える重要な財源で、鉱山開発は戦国大名の必須の条件でもありました。

下部町の湯之奥金山（中山・内山・茅小屋）をはじめ南部町の十鳥金山、早川町の黒桂・保金山、塩山市の黒川・牛王院平・竜喰金山、大月市の金山金山、長野県の甲武信・金鶏金山、静岡県富士（麓）・梅ヶ島・井川金山、愛知県の津具金山と数えきれないほどの有名な金山が点在しており、豊富な金の生産量を誇っていました。

それらのなかで、湯之奥金山と黒川金山は最も古い金山といわれており、湯之奥金山のうち中山金山の操業の始期は15世紀末期、黒川金山は16世紀初頭と推定されています。

ともに武田家が戦国大名の地位を確立する以前に操業されていたことになり、信玄公の時代には既に活況を呈していたものと思われます。

湯之奥金山が、山金を採取する初源的特徴を持つ金山であることは、出土品や採掘坑などから推測することができます。

主に「露天掘り」といわれる採掘法により、山の表面に露出している鉱脈を見つけ出し、褐色に酸化した鉱石を採掘し、その鉱石を焼窯で焼いた後、搗き臼・磨り臼・挽き臼などで微粉化させ、比重選鉱によって鉱石の滓を流し出して金を採り出します。

甲斐の金山には、「金山衆」と呼ばれる人たちがおり、彼らは支配者の配下に属する家臣団であると同時に名主的武士であり、山金を採取するにあたっての特殊な経営者でありました。

甲斐の金山は武田氏の直轄領であり、そうしたなかにも直下に行政官である金山奉行を置き、その元で金山経営を行う金山衆が集められました。

彼らは金山を経営する山師で、金山創業するための鉱山開発技術をもち、掘場を所有し、金子・掘大

工・掘子などと呼ばれる技術者集団を使って採掘に従事しました。

金山衆は平時には領主に対し、採り出された金の何割かを税金として納めていました。

また、彼らは領主から武士としての称号を与えられており、時には領主の招集に応じて戦に参加する軍役衆でもありました。

信玄の時代からと思われますが、城攻めに金山衆が従軍していた記述が武田家の朱印状に残されています。

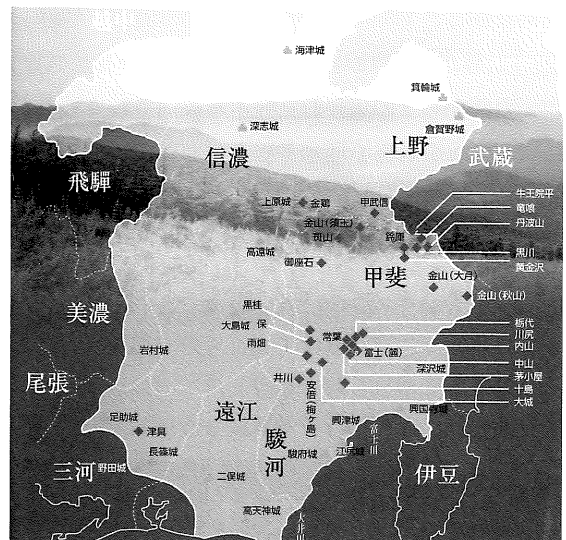
また、城攻めなどに利用された彼らの掘削技術は道路建設や土木技術の発達を促し、民衆生活を活性化させる一端も担いました。

甲斐の国で、川の氾濫を防ぐために建設された「信玄堤」もまた、金山開発の副産物であるといわれています。

甲斐の国の鉱山開発技術は他国の魁けであり、動乱の戦国時代のなかで、武田家は豊富な金を戦力強化のための武器・弾薬の調達のための資金とするとともに、戦のための軍用金や恩賞としても使用しました。

また、日本で初の金貨である甲州金を作りだし、甲斐国内の経済をも強化していきました。

このようにして甲斐の国は、信玄の時代に戦国最強の国を構築し、周辺の国から恐れられるほどの変遷をみせたのです。



武田氏の最大版図と領内の金山分布

## 施設の御案内

— その5 —

### ミュージアムショップ④

開館2年目を迎え、ショップの品数も次第に増えてきましたが、お客様は旅行先の地名や施設名の入った土産品を求められます。ワインはラベルに、日本酒は徳利に資料館名を入れるなどオリジナル商品も徐々に取り揃えられるようになりました。

ホテルドームとともに提灯も作ってみました、いかがでしょうか。



## 好評を博した富士山写真展

町内在住者で組織している写真クラブ「下部写真会（伊藤義昭会長）」の協力により、開館一周年を記念し、富士山を題材にした写真展を5月17日までの1箇月にわたり開催しました。

いつも目にしている富士山ですが、アングル、背景、気象条件などをうまく捉えた作品は観覧者の目を釘付けにし、「すばらしい」、「すごい」を連発し

ていました。

「重い機材を背負い、その瞬間を捉えるために数時間もシャッターチャンスを待つ会員の苦労にありがとうを言いたい」というお客様もありました。

プロ写真家の作品と思わせる20点の力作は見事というほかに言葉がなく、改めて写真と富士山の魅力に引き込まれていたようです。

## 信玄公かくし湯まつりに金山衆登場

毎年5月13日から5月15日に行われる、信玄公かくし湯まつりのメインイベント・入湯行列に、湯之奥金山にちなんで金山衆の行列が今年から加えられました。

入湯行列は、戦国時代の武将・武田信玄公が川中

島で受けた傷を癒しに下部温泉を訪れたという故事から始まったもので、信玄公を先頭に、武田二十四将、なぎなた隊などからなる約120人の行列が勇壮な戦国絵巻を繰り広げていました。

## YBS ラジオ生番組で資料館紹介

6月28日、YBS ラジオ生番組、YBS キャラバン'98「若林正人のとびだすラジオ こちら下部放送局」が資料館から2時間にわたり中継放送されました。番組では、資料館の展示や砂金採りが紹介され、こ

のほか、朝市の様子、特産品の紹介、ふるさと自慢、大声コンテストなどが催されました。

資料館では、この日の特典として、入館者に無料で砂金採りを楽しんでもらいました。

### 編集後記

夏休みのシーズン中には、家族で資料館へというお客様が多く、資料館は子供たちが楽しそうに砂金採りをする姿が見られました。

砂金採りをしながら多く耳にしたのは、「自由研

究の宿題は砂金採りのことにしよう。」という子供たちの言葉。

「面白かった。」「来年もまた来るね。」と口々に言って帰っていった子供たちにとって、夏休みの楽しい思い出の一つになったものと、館としても嬉しく思います。

資料館だより

第5号  
平成10年9月15日

発行 甲斐黄金村・湯之奥金山資料館  
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先  
TEL 0556 (36) 0015